豐國

連歌發句集

全

伊地知文庫
文庫20
58

文庫20
58

連歌はその源流乃神言より起れり人の世と
なりて日本國の令甲豊の國風土記の宮はて
新治筑波と詠ひ出せしより歌ひ
家持卿佐保川の水寒入て柏一面張と
詠れしより荊妻と稲荷社の名を一と
尤の手本新治連歌の元として建保の民

[illegible]
[illegible]
なの下の好士なかりきと雖も[illegible]
[illegible]
行れ一向専修専念の門に[illegible]
[illegible]

梵燈庵に遣の撰しに日ごろ[illegible]して相伝[illegible]
永享乃こ[illegible]世よ志[illegible]れたるに[illegible]
[illegible]
[illegible]
連歌の列[illegible]
の[illegible]

浮連歌師となりて或は
古今よりひろく別て或
は集年世たとりの沈淪の風士及花の下法眼
昌逸と懇意を結び連歌の道後学ね斜の脈
有れども称言ひかたくいとしたの人々乃
門に年見或は来会は国人の渡る白井り
天正の比より今年永二年まで隔年花し
連歌俳句集と号す年ぬ渡るも年年成
色一日一くハ稚心の年年成加へらるる人々を
年ごとの年ふし

嘉永二年閏五月　　春石園
　　昌浪

春部

春部の雲遠くなれハ
霞も都なるそなれなのこゝ　京法橋　玄川

今日こそハ雪の降しせう　久保　高遠

春雪の雪後の遠くく
霞ゆ　霞も籠ぬ今朝のこゝ　四日市法眼　玄頂

小倉家歌合連歌巻頭

名代の声や金殿の清和春の風　全

今朝こそや四方の道行く国の春　二條　元久

山杉や遠く移る門の春　小倉　道逸

立ちそめの春の色遠く

何時しか立ち移るかな花の春　高田　宗孝

いつ立ち春の色清る浦の春　小舟　雪弥

元日の春の色遠く

むかの春と先自ら立ちやそめ　鶴田　盛直

春立ちと三笠山の朝霞　久保　成安

千年の春の色遠く

年波や二千年の氷の春　雪川

日一春秋是なく
高くも是一老も我と年ものれ　鶴雄　正友

九十年のさらめ新
命のれ今ぞ三千歳行の春　全

若水や新年のうしき　中津　昌之

山ぶみもけふとのれや門の春　四日市　吉之

春毎に春秋是
百年や歳々雪の宮の春　豊道

雪乃春や むさしの冬の春　宇田　良雄

五十年の春秋是
是ぞ天の道為れ老の春　延水　治竟

千年の春秋是

鶯の八千代の仮
若水の名代ぶいと弁の松の礼　西武　正系
人こゝろ知る御日乃ちの影　久保　重雅
先ず一日三乃えて行く　湘　塗屋
春乃空の霞や千代の門の松　口　行鳥
来るとも行く春を惜まず　口　自休

今朝の方波静かに廣し一時代の色　上野　高慮
春の色の揚初し　湘　繁　繁雄
春雨やしと目ふるやうに梅の色　口　良次
遠ちの小蝶の紙て老の色　八屋　貞運
一しき春の初をしめ今朝の色　京町　好一
又の初もいと長れる年の之直よ

神ぬ[illegible]のの紙こすりあ[illegible]
今朝ぬ紙おとくハ一の年門の春　中津　安美
年も春も春おとの松の門　元和　豊隆
こと春ぬこと[illegible]門年の二[illegible]　凌　利成
　　寛永　義英
西の年の始ぬ
豊かり世ハ[illegible]の年の春　凌　利貞

試ぬ年ぬ光のもの春書　八田　右順
徳ぬ年ぬ[illegible]朝の[illegible]　久保　良意
人の百年年の賀ぬ
御山し国ぬ春ぬ老の春　黒田　義彩
人の七十年の賀ぬ
世ぬ稀の春ぬ[illegible]花衣　[illegible]　[illegible]

橘やその數成世過の毎の竹　大信　定信

つゝ藤く老と云て　二條　元圓

或人の古稀の賀ふるまふ

七竹ふ橘を例の　表　の年　雅田　是長

百年もひとつ二葉の松のもと

毛の白乃年白世の橘小すゝ草の形　尾合　邑通

つゝ濃紅の神や　若草の　大重　恒年

若草つゝ神乃緑や　春の色　番　定繼

老もゝふ橘ゝ世人の若草の形　上田　友弘

雪消氣仁へゝつゝ若草の形　僧人　宗知

色香後は枝やはなれ一国の梅　常雄

梅の香後咲ふ子先春の風　中川　名農

独逸歌千句巻頭

梅は世の中解香なし　延永　貞憲

香後色なるなるは梅乃色　中津　常香

咲梅は国あきし昼乃林の影　豊直

梅の香後紙つくる風とその影　二塚　昌張

香ゆ白ふもや音の国の梅　久留米　保教

下駄はこの花くもむめの香あきさ　金屋　好信

今も世よ年の内の香や年の梅　黒田　和中

初むの白い蕾一年の梅　柴木　釈常

梅ゝ香可ゝ言ゝ言ゝ場世の風　小倉　邦信

新小説 梅の香奇し 小夜花　　高徳

梅ゝ香よ 深れ出る 朝戸の雨　　宗光

深ゝ千白雪 花

雲の葉よ 咲初もや 神の梅　　真徳

梅ゝ香よ 谷の戸明る 朝の影　　真徳

石の梅よ 輝く 夕日の雨　　道寫

百鳥や ゝゝ香自ふ 梅の宮　　初真

或人よ送りて

梅ゝもよ 輝く人 梅の蔭 あるく　　房子

春や何 ぬ知ゝ香の 岩の梅　　房英

梅ゝ乃 色や 世間乃 ものゝ色　　宗長

下ゝよ 美ゝ小 梅乃 垣根の影　　栄寿

雪の日も香やハ深き窓の梅　　政信

梅の香ハ園の胡蝶の夢　　蓮入

春うせて梅うす香なる星もかし　　仝

湯殿の久しかれこの梅の香　　義訓

深き新や新湯の梅の月　　新左衛門　刻無

香なつかしき山の中　　玄順

こゝ深き一時ハ薄し春の雪　　素堂

陸ハ消ん波の渡る氷の上　　宗因　信定

動人ふる年の筆を送てなる孔

仲の子ハ二百の年に成る胡このれ　　清之丞　順知

春をしらぬ花もなる百の山の影　　長谷　邑通

峯ハ雪梅ハ花ハ春の雪　　安氏　正京

雲霧のふ長て遠きこゝろ根とのゝ家　長之　敷宣

雲消くゝ照る日よめるゝ春の霞　筑後　敦美

雲霧や村消月の　雲　越紀　隆紀

霞霧ふ雲よ霧りて高もあし　陸人家

鳥の声　雲の色もあし　仝

鶯北雲ゝ出る月雲　仝

鶯や世を捨鶯の　笛の音　右度

鶯の声世捨世の色もあし　笛の音　正友

鶯や山ゝ門ゝ長ゝ頃寄　京住吉　良山

鶯鳥や芝ゝ人花の都　多　武蔵　貞宣

鶯鳥い已ゝ行の風　延水　宝水

鶯や世を捨鶯の　笛の音　寛命

黄昏乃すゝ曲もれぬ若草のれ
黄昏や戸の隙風　李柳
黄昏の帰雁ハ歌の調子のれ
学の為れていたゞの色草のれ
学の為ときこゝろ入し撰者のれ
角田川にて

二條　元淺
西園寺　実氏
安東方　敦自
別所　資忠
久世　林撰

河りや市や霞むり清の川柳　実川
七日立く行雁や川こ春辰　安氏
淀屋の下絵れ　川の上辰　吉辰
松の二枝山桜とゝよ朝霧　元久
春の雲や二條城ゝる峯の松　宗祇　即世

為新連歌の発句

富士の根や白雪新　胡蝶　昌浪

花や何ぬしの春の胡蝶　西谷　包義

遠山の連歌

霞をや法花の多網　茅蜩

山の色網遠をや結自　日市　綱保

烟れる遠山の多霞　下谷　雅徳

白の戸に流れや流る霞の形　茅寛

丁ども行雲に流る霞の形　三水　雅徳

山のきるこ霞や一色八重の山　平秀

雲の間ら霞の色の色　利國

色も色し霞の形の形　春香　貞晃

下茅の下の霞の霞　紀之

嘉の色乃下揺寄し　彦さすと　白堂

滝の音も霞て流れ湖の　数文

幸山の雲りや　二日のうす霞　（雲の）　歌之

雲のまやや　春霞の和も　（今任）　可悲

水上の山さく雲むなこの郷　元潤

嘉の雲の海の海の高人　八重霞　雄人

今の音も滝て自ら霞の郷　仝

名の霞むの番付の山路の中　仝

門の音も霞さくむなれ　（番）　郷士

名小雲の坂竜走一名霞　（二編）　歌人

仙境郷や　春動名の雲　西治

（今春）

雲の郷の雲や　空の風　好信

佐保姫の霞の衣ぬぎ捨てや山の錦織るらん　　春雪　重胤

佐保姫の神代の山の錦織　　同　道房

佐保姫の神代の月の陰てのこす　　恒年

佐保姫いつこし春の山　　前　教房

佐保姫乃神代の月の袖のすき　　今原　慶寛

佐保姫の春の時の七重　　口　英成

下萌や去年の霜の残り　　雪迫

春日の雲の裏や　　春　　重長

下萌も雪の綱引　　雪山　　豊直

春や日の雲の裏の霞　　昌長

下萌の雪とけ初れ竜山　　清人

鶯や春日の雲の月　　雪迫

月ぬ[illegible]とつけ　雅房　　左廣

又一月八小縁ぬ　者の形　　今井　坂者

入源乃　横ゥ書遠　一きの月　　中條　家品

秋良乃　月ぬたゝ[illegible]月もるし　　沙夏　西道

源ぬの華や　雅く　きの弱　　國紀　道房

雅ぬ厳の西の縁よ

雅ぬ帰ぬゝ　ぬゝ　よ落る厳の糸　　玉顔

若仲の書よ書紙帰　雅ぬの邦　　雅徳

書ぬゝ小霞ぬ　生遠の雅ぬ邦　　若竟

已ゝうぬ　ゝて書ぬ　雅ぬの紙　　小会　源信

久ゝゝお会せ　人の列を横て

ぬ乃乃帰ぬ書紙若ぬ　ぬの紙　　中條　房子

胡粉ぬりて雅なるの声もあるし

[illegible]きて柳の風　俳人　[illegible]門

柳も用のむの[illegible]の水　[illegible]俗　古文

柳撫髪や　[illegible]の芳　西柳　[illegible]年　言風

或人家の壁を拭[illegible]

[illegible]も[illegible]の竹[illegible]なる柳　柳曲　是春

塵く世や人の口の端　西柳　貞く

[illegible]柳の[illegible]白き　[illegible]の風　包貴

川の波柳を掛ふ　柳の風　高鹿

水の結織[illegible]し　川柳　高美

舞や柳[illegible]ふ　河柳　雅種

[illegible]人[illegible]の[illegible]柳　[illegible]倉　信定

もゝとせに言の葉やこもれる　行篤

月のやどの袖の露いとゞ秋　吉弘

朝ぼらけ、言の葉ぬく糸ぞ　西信

秋ぞ来る人の袖に露こそ　高明

秋清し一枝や蓮と拝ぶん　敦英

月まちえぬ風の海の歌　敦文

春ゝ雪乃ふるや　もゝの糸ぞ　真芳

晴ぬ間に水鏡下紅の花の風　公

見れば月ぞ春ぞ　なもなつかし　吉廣

春の雪　雲の時雨よ　春風　宣道

雨の間に見えもする

秋こそは紅葉すれ　恒年

四方や山の名にしおはば　貴賀

春霞つむ朝ぼらけ　高能

潮干や　こぬ浪路より　西行

春きぬと　人も見えぬ　雪の中に　左京

行末遠き山の端ゆ　利成

消ぬるかの雪　人麻呂

里人の　雪踏み分け　山田の道　仝

降る白の糸や　玉の緒　柿本

もみぢ葉の　散りぬる時　春宮大夫　有宣

もの思へば　春の夜の夢　唐衣山　法雲

言の葉の　玉と見し　時　宇佐　信有

探花

吟てゝいたゞの香ゆゝ山　日高　公愛

藤ゝらも春山つゝきしたの色　〃　玄川

花菜ゝゝらのもや　白雪　〃　玄清

行せあや人のゝゝ路ゝたの紅　〃　威国

たの雲ゝ春ゝ山　玄顕

雲埋む芳野ゝゝんて花ゝ来　全

ゝきてゝゝ山たの海乃山ゝ風　全

筑波山ゝ登ゝて

けゝ面　俳面ゝゝゝゝてゝ峯の雲　美雲

面踊も美ゝ山たのゝゝ孫ゝ　美ゝ山　豪真

鳴門海ゝ海の波

百の菜紋継母や虫の庭　李由

虫まあれく多せの峰の嵐かな　仝

丹波なる鹿山にて

虫まよふ路も見えぬ山路かな　仝

右加ゑつゝ見

新いいのこゝ路乃追ふ虫の声　仝

虫まだしらぬこゝ路其まゝ葬送の風　仝

送別

別れ人いつまた見ることきくの声の虫　仝

ゆく人は情は見えて行虫の声　仝

夜海は雲しまる虫のこゝ路かな　中庸　一歩

月も見る乃ふく浮れ花の友　口　家香

歌人の作ゆえ

言ふもおこがましきのもの乃ちまつ雲の
羽ばたきや　　〃　　久知
ちはやぶる　　〃　　今井　言水
言の葉やこゝ浦の乃都人　　〃　　西利
ちるかなて　　〃　　秋田

花の流の色を流れて　　〃　　能遊
色ふかのも都のもを篠笛の風　　〃　　高秀
待や　　〃　　花の花　　二条　　菊花
言の葉の　　〃　　八田　　言風
今ゝて花よ　　〃　　新田　　久雅
歌中もとて　　〃　　花秋

言の葉ふかくあるやとの都人　大僧　保安

行あるうち香ハ殘る世やとの伝　西行　貞享

雲もとる曇ハ月ハ三夜ゝ　貞享

待あるうれ行んともおし　玄長

行会の雲ハ二ホの月の枝　仝

治承清水ゟ日次参詣

春風海ゟ来るいやとの風　盛重

香と送る花の香の風　包教

曇ハ　や　月雲ハ月ハ　美の山　治承元年　包教

菊海ゟ来る待ゟ世との風　延宝年　清寛

山門や嵐の深しとも筏　呈蓮

香ゟ見ゝ行のとゝ見ゝ　宋　信因

[illegible]

人の八千年の賀に　　吳長

菊色は八千年ぞ知るらん　　自雄

花の絹やとけて高しの滝の糸　　仝

行末の色ぞ多き都人　　作者 程房

もゝ千とは道ぶこゝろ行末　　英朝

[illegible]

二つの元成

もゝ千年の白い絹を行山路の菊　　元花

菊くもの高き世を積る泉水　　かるの 千重

月もゝ千年の積りや都人　　義星

もゝ千年法ゝ人ゝ浪華人　　時氏

真行草の宿を賞よ　　中務卿 之忠

八重咲や花の雛も吉野山　ちとせ　一而我

翠のうち花もさかる朝日の風　京　高堯

花に雨霞にくれて山もなし　国分　房英

梢折して花の奥ゆかし嵐の山　雅穏

花に月世にをられや神の春　重廣

花の道は神の御幸の御幸の風　香　種直

誰たちそての風のゆかしく花盛　藤　隆紀

雨の夜ふけてこそ訪ひけ花の色　伊賀　貴之

花も恋雲に入り山桜この頃　後人家

花咲きて雲に霞のうき世の頃　仝

美人の道は綾も桜とさ組の春　仝

思ひの花の花のこゝろ梢の風　仝

春霞たなびく山の桜花　仝

白雲や春の来ぬらん芳野山　仝

降とも山陰なれば残りけり　仝

新しき白雪つもる春の雪　善利

白雪の降て積りし春の雪　専門

白雪の降て消ぬる春の雪　吉廣

白雪は春の来ぬる山の風　仝

白雪や春の来ぬる山の色　昌浸

春霞もしの春の胡蝶の風　春山（芳野山）

白雪の消ぬる春の胡蝶の色　房英

春の来ぬる小蝶の風　利房（野蝶）

白雪は春の来ぬる里の風　利流（杉本）

岩におりてさくらもこの花の桜　久保 牧雄

えらふ人のこゝろ集る桜この花　中津 春風

切も落桜にとも先まなかる程　口 西園

捨れても花咲そ夏山桜　久保 牧政

自他坐二

えらみ世をよ遁もはしの家桜　玄川

九重や都路桜八重桜　豊直

待ハちらで久しき桜この花　英彦山 義寛

花のまハ桜も世もなき桜の雨　口 譽貞

若宮八幡にて

植しよりやまこゝ若宮の桜哉　草森

浪葉や渡のこゑて来た桜貝　二伴 之貞

咲継くこゝろもゆかし世の家桜　宇田 良雄

[illegible]　　芭蕉

年[illegible]世[illegible]桜　　蕉貞

言の葉の上[illegible]桜　　竹春

[illegible]桜　　西辰

[illegible]桜　　曉之

咲ふ[illegible]　　元治

言の葉の[illegible]山桜　　信固

俄[illegible]　　柳年

[illegible]　　元永　直延

山[illegible]人よ

[illegible]嵐の山桜　　邑通

[illegible]　　温寛

雲やあらぬ遠山桜の春桜　曉之
ひさかたの空の山桜　西敬
あつまぢの春の代雲の春桜　号秀　真愛
植て見ぬ心の花や桜人　利成
雲とみる花の雲の山桜　元因
袖の香や　恋しの春桜　是長

白妙の花の雪や　桜人　宝水
花も奥ゆかしや　葉の末の桜　高堯
花の陰ふる雪ぶりてや　遠桜　公慶
遠桜　鶯　鶯　春　昌長
思いきや　花の春の九夏　号春　徳潤
忘れぬ山桜　号春　歌月

七日咲て青木の内に櫻このれ　　左時　西春

風百櫻ゑ咲ぬ春もこうゑ　　羽元　羽黒

吉野もよしく櫻の色盛　　西芳

植置しこゝ咲の色う櫻く　　隆紀

春盛ゑ咲ゑ櫻の色ゑの郷　　得田　政徳

異濃ゑ咲ゑ櫻の色ゑ

人の色と紅葉の櫻こゑ郷　　高ゑ咲ゑ毎　百郷

色ゑ色ゑ色ゑ櫻ゑ　　春色　紅子

ゑゑゑの雲ゑきゑの山櫻　　瑛忠

眉やあゑぬゑ櫻山櫻　　仝

色の色紅櫻ゑの色ゑ櫻　　仝

紅ゑもおゑて春ゑ松の春　　宇花　信重

ます川のむかし顔やむかしかな　吾　良然
三千年経柳に何とむ老の春　元永　貴任
三千年ハ今一番ま出りし柳の也　小倉　蕉伍
蛙まくこ頃ハむの稽の那　元永　草隆
言の葉の色り稽の蛙かな　重廣
夜しもやま蕎麦係小田の蛙哉　元成
萬代ハみどり也家緑の松　常是
萬代ハ風静こしりの朝の肌
饒し雪ま塔れて雨に蕨の肌　雅徳
雨まことく真白小網の蕨の肌　正辰
折満て色もや神の手蕨　常是
春の日前に伸せてこぶし蕨かな　読人不知

つゆ神の上衣の色の薄仲
みも橘よこの葉をうる事
咲ちるまでて橘をへの葉こうれ
色四よ法ちて西辺の葉うる
日い蔭こ命こ者はする雲雀哉
名海ちる帰命の雀

橘　真能
西　和中
　　ちる歌
　　仝
　　あ哉
元水　重辛

橘実ち赤農の稲葉この影
神毎ち今日を掛ち桐うれ
葉こ枝の一所色もう濃紫
葉浪の松ちこ雪ち吉も海
葉霜て松ち赤の浪も百
大月流ち浪や　葉の色

方信　重信
　　俊人
　　吉房
　　西房
　　包茂
あちち　源月

芳原は春風を鶯に誘はれ　元治
梅の上に雪の花の色　茅舎
鶯の八重垣越しに白ひの那　西左
言ふ色もよし鶯の一言に　雅能
山桜のいろぬるまる色うれ　有弘
鶯の白いも沖の岸根うれ　西伝

鶯の色も春も沖の岸根うれ　呂侯　信義
山吹の白い濃の春　遺家　和中
り春車廻る自遊一神楽　長門　道年
云の茶乃原の和人茶の山
武人の還暦祝して
六十一つ年代の春　馬場　義敷

ものの齡つもんで幾の年の積
蓬萊人拵むや千代の物猪　　北本　沢常
清しやな春の日の松の色　　志流　西英
松青く春風白き朝こうれ　　稱内　山城
歌人の古稀を祝して　　幸子　西南
春盛りなる松や千の年の色の色　　西道

ひしけたる氣
松を春千代の孫乃若緑　　蜜
歌人のもとに
千代ふけて花ゆかしの春の松　　玉星
古稀の祝ぎよ
嘴よ千代もとゆ物よ物ぞ　　玉顔

年代のけて咲やほるれの年の春　吉川

春の色ハ行よりもなほ里もかし　今井　素風

松青し川のうちうし春の山　宗伯　公園

夏部

雉里も多い年を　白瀧　宗伯

開ちや後の塩釜の　如瀧　二郎　元之

花の月へ切の春うこ高ふ　久保　素幽

白雲よ山やうこ夏　梅園　風政

移り香ハちよせ　如の夏　陸人

水無瀬殿の月を見て　坂部の風

月のかげ雲ゐにすみ渡り　坂部の里

四方の雲ゐ新やの月を見て　[illegible]

雲ゐよりよ月を坂の夕月夜　[illegible]

照らすらんや一所を坂の夕月夜　[illegible]

所のものの雲ゐ分け山路の秋　[illegible]

[illegible]　宗伯法橋　玄川

[illegible]　[illegible]　玄長

[illegible]　[illegible]　浮山

[illegible]　[illegible]　宗命

[illegible]　[illegible]　宗堯

或人の首途祝ひて

舟道の首途の帯や毛一所まで　尾倉　[illegible]

月のかげの坂路八夕　[illegible]　[illegible]

月を見や坂路半の夕月夜　[illegible]　[illegible]

乃潮氣水や　[illegible]　[illegible]

陸の門出やいつ　[illegible]　[illegible]

下ちるもみの紅葉や　杜若　中務　雪子

池水に底ふかき色の　杜若　〃　雅子

玉川の岸の姿の朝よかき川ゝ　雅素

色ゝ雪ゝ消ての後も多賀市よ　美彦山　富年

色ゝ雪ゝ初まるや世ゝ多賀市よ　中務　秋素

春ゝ雪ゝ消るや消る雪よ　雅田　由雅

月や雪ゝ雪の雪乃消ゝ仲　八屋　真花

ゝる人のこゝろの色ゝ深ゝ雪よ　紀事　西通

言の葉ふ咲てゝもの多ゝ仲　吉　西仙

多やいゝた飽の色ゝ雪ゝ仲　〃　友弘

朝雪の雪ゝふゝ色ゝ消ゝ仲　万秀　雅能

ゝる人乃詞の色ゝ消ゝ雪よ　ちか　政信

梅さく山人のこゝろ経や深き草　宗堯

ちぎりて見顔人の句や深き草　中山玄蕃 青宗

雪ちらせ花の盛りし香日升　礒人宗和

初てまつ見るたる人よ

春いたづらや三たび深見升　仝

花の川ても雪見よ　郭公　冨市法眼 玄碩

孫子ん残も深山出　子規　幸逝

思乃子の鏡軍や神なきの蜀魄　美濃山太守 有道

名もこゝろし三日雲井の時鳥　〃 知政

聞れすハきこので色なん不如帰　〃 豪雅

窓まほし今も一声郭公　〃 良範

礒人待すよ女声も一の瀬　延永 貞覚

海辺の宮垣日影すゝ彩る　　仝

はるゝ夕梅ゝ世よ　日の松　　古廣

梅ゝ下ハ梅花のゝん　蔭沈　　仝

一声ハ藤孫の葉ゝの　影ゝ　　二條　文刑

行雁のさゝ　ゝゝの声ゝの郭公　　京住宗清　中丸

ゝて大山の日影ゝの影ゝ　　望月

夜ゝの〳〵閑のうゝ川ゝのゝゝ

声幾帆ゝ行ゝて船ゝや舟ゝ　　稱田　曉之　　屋倉　邑通

藤ゝてゝゝ

古ゝゝや海も思ゝ　　〃　信覺

ゝ船ゝ　ゝハ　林ゝ　　下侍　巽覺

一声ハ清水の葉ゝの郭公　　〃　巽秀

別所の雪い湖このみなとまで
声ゝとも世雪も色ふる川けむる
うしろかと言ー稲荷の鶴

或人ゝ宮れく

元永　豊隆
口　雅経
正治　房実

ほの消れ雪の秋ふ舟　郭公
面雪や山路の夫ふ　子規

信仰　秀冷
信濃国　源政

或人常ゝ雪の屋根ゝ宮れハ
稀人の雪ふ雪のよ　郭公

口　定家

時雨ふ雪と雪ふ稀ふ雪　郭公

中陸　雪義

冥の宮も沼ふ宮雪　郭公

八田　右頼

桔ふ花の色ふ　けむる

金沢　城義

声の月姿ふ雪ふ雪

博覧　真業

声なれて帰やゐ面の郭公　　日野市　綱條

二夜ハいつまし山ゑ　郭公　　苔田　教房

布ゝ出く帰やゐ面の郭公　　二塚　元成

まてゐもむ月の雲ゝ　郭公　　小倉　卓尓

晨明の月の雲間ゝ　郭公　　口　公遠

面ゐ雅里ゐ　郭公　　天白　定紀

待程とゐ帰やゐ面夜乃不如帰　　鶴塚　一春

郭公ゝ後面ゐ声もゐ形　　藤久　徳次

面ゐ首ゐ通ゐ声もゐ水　　新津　半松

待河ゐ年ゐ稀ゐ人の竹ゐ　　口　弘美

こゝ所ゐハいとゐ郭公　　湊　利貞

山住の薬師の五の曼荼羅
まゐらせ給ふ時に夜叉五千
声聞仏菩薩の眷属
志のごとく山懐の作者
新仏菩薩この作者
一寺建立し給ふ夜新仏
神仏をもつて
一声後ろ八雲
神仏をもつて
東西に千遠里
磐の山忘れ
為もつて帰依
新仏

作者 二宮
書者 貞晃
〃 夏堂
〃 金剛
〃 紀之
〃 数之

二宮 昌浩
〃 義人
〃 〃
〃 〃
〃 〃
別当 資忠

[illegible]

幾世経る[illegible]の宿の松　素逸

月人[illegible]下[illegible]　[illegible]川

[illegible]　源[illegible]の梅桜桐　[illegible]

[illegible]人の云[illegible]

[illegible]の[illegible]の庭　仝

植継[illegible]川[illegible]の[illegible]風　良雄

[illegible]　[illegible]廣

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]て川の[illegible]　昌張

秋の[illegible]　二堂　元澄

[illegible]の[illegible]　都山

[illegible]　　崇竟

[illegible]の[illegible]の山路の雪　　延永　清竟

[illegible]の[illegible]を[illegible]る　　〃　寛命

[illegible]く清山[illegible]　　[illegible]　清紀

秋の色[illegible]る[illegible]の[illegible]れ　　一美

[illegible]の葉の道の[illegible]風　　春好

[illegible]も紅葉の[illegible]山　　吉祐　西英

[illegible]の[illegible]の葉の八月[illegible]　　つ[illegible]　西春

植こしの[illegible]も二庭の[illegible]れ　　小谷　清恬

[illegible]の風も[illegible]の[illegible]　　二塚　元成

[illegible]の[illegible]の[illegible]れ　　〃　元紀

[illegible]の[illegible]て[illegible]の[illegible]れ　　[illegible]

もゝちかゝ根ゝ風もこゑ未そ　仝

こゑ未や分むこゝろ乃風もうれ　仝

花ゝ海ゝ奥ゝこゝろも深草　大宣　恒年

そうれや為も顔ゝむゝ雪　男西　貞宗

胡風ゝ色ゝ末ゝ蔦ゝ風　六会　嵐宗

蔦葉形ゝ雪ゝ沢ゝ水　得西　暁之

或人ゝ句稀成ゝ

稀ゝ例ひくも根もきゝ蔦ゝ風　みゝ　義刑

月毎ゝ雲ゝれて白ゝ蔦ゝうゝ　昌浪

もゝと根海月ゝ絡ゝ蔦ゝ風　延永　琴子

形ゝ霜かゝや胡ゝ竹やめ蔦　ゝゝ　ゝ

白月白ゝ雪も美ゝ蔦ゝうれ　ゝ原　政信

若行の袖世離りの袖の涙
年の浪八の年の根の[illegible]　貞宗

をしめて月次の玉紙作て　延永　源宗

そよそもは一翁よ宗の中　教宣

天井や手綱緑の藤川　太夢　主殿

五月雨の山や[illegible]の[illegible]れ滝　左廣

五月雨中郡川を越し山と為し　昌長

五月雨て蔵氣[illegible]や滝の糸　別当　資正

五月雨や好[illegible]を二度も滝井川　[illegible]

五月雨て白[illegible]五月の[illegible]を[illegible]　仝

月の夜も雨降れば浮橋の面　仝

もや[illegible]の[illegible]て世[illegible]の面　敷宣

ゑみも色もにほひし乗の梅　宗庵

言の葉乃[illegible]なる之櫻麻　貞角

可惜や刈すハ花の櫻麻　讃人宗

こゝろやけ乗の大ゝ雨ふ春雨　一草庵

髪結ともにふ濡る春雨の風　玄清

蛙鳴の玉とふ小夜春雨の中　色數

こゝ紬乃色も緑の春雨の風　知具

春乙女の顔も卯し之早苗引　宗堯

春乙めのこゝろすゝし麗く春雨の風　可信

蛙鳴乃玉とふ小夜ふ春雨の軒　交仏

言の葉の末ふ行りて花ふ雨　義剛

卯しこゝくとりハ牛角の春雨哉　讃人宗

今こそよきやかの神の貴船
海老ふ[illegible]の白ひこの孔
[illegible]世のものや思ひ出貴船
[illegible]ふきの上の世やむの貴船
橋のことの貴船家の風
むの貴よ[illegible]やも[illegible]貴船

[illegible]四 [illegible]長
[illegible] 光淑
[illegible]永 [illegible]
[illegible] 重[illegible]
[illegible] [illegible]
[illegible] [illegible]

橋の貴船養ひ[illegible]の孔 法 房之
橋乃[illegible]の[illegible]の[illegible] 奏 [illegible]
橋の貴の[illegible]養ひ[illegible]の孔 [illegible] 資清
橋の貴や[illegible]家の孔 [illegible] [illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]世の[illegible]の孔 [illegible] [illegible]
[illegible]の孔[illegible]橋の[illegible]

[illegible]

月新のさしぬ新編の新勅撰
こゝろなくゝ帰る雁哉毋や哉まの月　雅経
川辺のゝ春の長き雁哉毋とうれ　雅経
河波のゝ春の長き雁哉毋とうれ　利貞
海人のゝ長きとうれて雁哉毋とうれ　源人忠
姫百合や　こゝ雁哉　雁哉の新

法

雅経
信定
玄川
源人忠
西行
雅経

初あゆりやかけて岸の川辺
雅経　信定の春の雁哉
こゝ水鶏　清くこゝ　一花の春
刈稲もひつゝ小鹿　くこゝ流の新
天のゝや　雁て水鶏の春の雁
雁の　仲のゝ　叩く水鶏の雁

流れて落ぬ夜数の水鶏哉　同心　房英

明るとて川の瀬明く水鶏の鳴　芳雨

天の戸の明るとて明くし水鶏の鳴　日　保義

明るまで戸の戸明く水鶏の音　友仏

その戸明く数声の水鶏哉　西仏

秋はつる水鶏の帰るなりて

秋の鶴の鳴く宮居の鶴　鶴

雲の泉の鶴の鶴　春廣

雲に見えぬ鶴の鶴　仝

風の吹く鶴の鶴　茅堂

滝の乃鶴や帰て鶴　恒年

うの鶴もみな川鶴の鶴　祥日　函廣

元禄五年の冬ふり雪
川ゝを雪よりもせしふるの風　　千市　柳浦
灯の消めふ百夜の雪ふり　　大学法下　湾島
川辺の手石の夕氣雪　　涂紀
目ゝきゝ流れ行ゝ焼す雪ふる　　炎　邦房
雪ゝ人形流ゝ水　　花　西方
　　雄人書

百ゝれて雪ゝ手ゝふるの風　　仝　雅徳
蟬の声ゝ山ゝ山の夕日ふり
山ゝ一日新ゝ百ゝ蟬の声　　西道
ゝ百ゝ蟬の声流ゝ行ゝふ　　雅徳
蟬蟬の声の百ゝ歳の雪　　恒年
ふり行ひて過ゝ百ゝ蟬の声　　哲　西辰

蛙の声や水の濁り　樗川

行こう一山松の色　蛙の声　西任

蛙の数比叡や落ちき夕の月　友仁

蛙の言ハ京ハ忘れぬけふの雨　隆紀

山川や風ふく蛙の声　保茂

蛙の声高瀬川なほ山ちかし　徐人書

夕涼

夕ぶ拂ふ源氏の小塊ふ　玉頂

夕川涼ハ千鳥波の音ふ　令

波涼ふ海松や根の海の藻　包安

吹風ふ千鳥ふ　西辰

鳴音の星月ふ尊こうれ　稱因　為長

涼しさ世の石の井　豊重

花ちるや　多い春の濁り水　玄川

春深し　雅楽の音遠　恒年

春ふかく　花もなくなる花の色　雅能

世を捨ぶ　春夏の物の色　西道

捨るや　物の色の　仏像風　西数

捨る海　彩む捨よ　物の春　元淳

捨るの上ちるや　物の色の濁り水　讃人書

物の色　濁りそめ　蓮の色　宇田良家　良春

多春　蓮の色　濁り　蓮の色　玄川

世の春　蓮の　蓮の　蓮の　道哲

池の底　水濁り　蓮の　蓮の　家能

花ちる　池の白　蓮の　蓮の　淳紀

月の光り秋ふけてしとや　増阿弥

雨りの未山新緑かをそえ侍て

歌舞とてこれやいはあきこの月　久保　素幽

雲ひらせんそしの夏の月　西丸殿　翠中

海鹿のまへ原源一波の月　高川

又新新の鶴し源一冰の月　吉田　良義

雲ゆ清て川の夏の月　釋白　芳昌

雲とれて雲もし源一夏の月　清町　定信

源八月の鶴て風も涼し　紅葉　亟久

夏の月や白玉清殿川　南嶺　稚道

新源一清きこの沈の月　尾金　信晃

第鶴や松もいはあきの月　[illegible]

月の松風ふくは沈の尊こうれ　　仝

出あるも月紙の別沢扇こうれ　　古廣

寄一紙の松風ふく扇の涼　　仝

言の葉の風も涼しく　　国代　房英

掃ぎんむ世の事扇の扇こうれ　　羅参

市人は風をも掃ぎ扇の市　　鶴く

風吹ぬ夏やハ河ふぬ夏の二庭　　元澄

夏の日ハ宮居き風の金の弓　　淡人家

運ふ貝ハ夏の印り氷富弓　　古廣

雪とうへよ氷室樹の雪蜜　　二塚　西伝

夏川よ為こそ流れ滝の氷　　貞堂

夏川の為やられ流の氷　　延宝　主一

繰り返し返し上源一流の糸　法覚
六月や新しきて雲の峯　安武
日の足の越えぬ雲の峯　敬月
雲を出て月や越ぬ雲の峯　寛命
雲のうしろや白くまとる山姫山　利成

泳

比叡の山おろし

世々千とせ経し山やこゝのうしろ　幸盛
こゝ山やこゝろも色ふきこゝの峯　幸廣
山の濯く高ハてすむ井戸　幸滝
山ゝ〻ゝ滝の玉ゝ泉の風　保寛
吉き原ゝてゝ汲山石清水　保寿
源ゝゝ後滝ゝ庭の泉ゝ　盈久

袴ふるやゆ秋しるもいとを山の清水　重敏　敦美

折菊や暮ー暑の橋ちら　下伯　宗清

ゑまれや秋のうら葉き芦花　仝

賀茂神社奉納

清ーるいつき山の谷の水　吉川

池ゆや月ひとふ夜く月清し　幸邨

吹ゑいかるく清ー松の声　四日市　松雪

見い上ゆ世ゆ松の下清く　吉房

夕風ゆ暑ゆや　ゑゆむ京の橋　昌長

陰宮ゆ清ーい拾く玉拾　拾西不　成政

松風や清ーゆ法の長き　成家ゆ後家　月白

白浪を一言と中いゑも苔し　角田　之定

文の海文の小舟哉　西京

面影の声や浦まさりの松　信国

浦ゝまさりの川ら岩川暮の月　俄月

樓や夏の海辺のみすゝ哉　吊蓑

無後の老せぬ松の浦ゝ　巴隆

哀なもまゝ川ふ変ゝ　巴鹿

法人のこゝろの底や極仏　隆伝

世の人の世やゝ乃極楽　紆事　惟孝

波のゝ乱もまゝ川や神代の極楽　口　平山

直き世やこゝろの底極仏　敷直

夕浪の声や浦まさ極川　久保　敷紆

まゝ乱く年波浦　惟孝

文と秋の中川添一夕秋　邑通

風流の浪や白糸繰り返川　重伝

麻の葉や手ふき浪の人こぎ渡　中津　古風

水清しこころ洗ひし浦極川　宗伯　助世

川の音声中の程の浦極の月　素逸

文と秋の浪やきらら浦極川　稲口　黄鶯

秋部

柳ちる秋一筋の風

柳より敬しきの二筋の雨　久保　素逸

一筋の秋は神に向む二葉山　宗化　文清

月小菊の年ふるまき柳哉　中川　古廣

一筋の菊行情や清の接小舟　大橋　重伝

敷紙に拾も一百二首の内
一首義 相より立ぬや秋の風
秋ハ立朝振ものの乃一首ハ
一首義 風ハ秋ハ何ものハ
秋ハ来ぬと風の立ぬ一首ハ
千里ゆきて秋ハ立れと義一首ハ

日野 菊麻呂
二條 元房
小倉 小溪
日野 綱秀
口 真吟
足田 真美

秋の立風の音ハ一首の内
立秋の姿ハ風の一番ハ
秋立ハ風ハ光の一葉の内
美濃の刻記庵の一首の中
一首光影て秋知河ハ
吹通る風ハ秋ハ一首の内

尾金 邑通
延永 治寛
大信 遠石
口 立和
口 方保
書 西経

三ッとり秋よりやこの歌一首あるべし　口　貞直

秋の色のそこ迄ゆくてる　一首の事　口　師時

先哲て秋張よりする歌一首ある　堂深　四春

寄り秋張月ゆくる風の一首の歌　松口　志親

寄りて風張よりする歌一首ある　宗弟　宣知

岸張紙よりする歌　口　貞弟　英実

川辺より歌一首ある小舟の歌

秋とゝ高のゝよりする相の一首の歌　口　道徹

秋寄舟と月の初する歌一首の歌　西之院　実云

歌物語一首成風の姿の歌　乃侍　本敏

歌ゆ歌ハ秋之風の一首の歌　口　雅純

歌ゆ歌ハ物や源蔵川物　文永　雅徳

大地弁　重治

月よ〻〻西風ふかせて一ツ〻〻の秋

久〻〻庭よ秋深〻〻て一ツ〻〻の秋　日　重廣

きりぎす秋深よ〻〻する秋一ツ〻〻の秋　長谷　敷宜

浪よ敷一ツ〻〻や池の松ヶ枝毎　濱　房之

如敷〻〻秋ぞ川庭もと新の春　番　美次

三日月のふと〻〻秋ぞ久の秋　大里　信之

久保　素逸

　　秋代の菴信受作て

　　全

　　原田　盛之

　　二條　光廣

　　元成

　　雅人

織めや雲の下紅葉錦

同　山路秋

同　岩根水

角田　老竟

重春　航河

宗伝　助世

同　雲大社奉

朝雲も八重垣作る宮のうれ　宗伝長格　玄川

川橋ハ二方の極して来もあし　玄頂

朝霧や方々の雨毎　素逸

月路遠き山や深し白雲の海　延永　白竟

風や吹く雲の浪三方の海　恒幸

雲かくしてこく舟のとまりし　　笠岡　翁美

笠風流　沖中川原や雲の海　　西紀

川橋や雲の風さはやかなる　　徳人

雲門一本雲を植て山もなし　　仝

遠山に雲ふ深て滝もなし　　仝

雲の雲ふ奥知る雲の峯山　　京原　高堂

弓ゆ似て入るも早し二日の月　　雲門

紅葉や別れ出し松の月　　仝

こもしめる無影や月人男山　　玄頂

月の雲ふく西吹秋の風　　廣寺山　禪燈

月おりこす秋や千里秋の雲　　貞寛

山里や宮ふる出る秋の月　　二塚　昌淫

なとせいの長と想ふ峯の月　宗牧

月ふかし時雨はいつの雲のうきなるか　仝

十夜ふかし二三日の月　仝

清ふかやこゝろ墨ぬる月の友　中務　昌之

秋風ふ濃山の月の木のもとに　日　師左

面白や　むの声きく松の月　日　秀清

秋毎ふるれいてそ詠まつ秋の月　玄廣

月のかゝるかな　仝

今宵ふ月ふ濃れて雲も消し　二原　元貞

河ふかさやけ毎けく高の月の庭　桂　昌長

池水のいひ長ふ澄月夜かな　日市　茅雲

こゝろ長ふ千里ふくゝとふぬ秋の月　安氏　正景

残山墨ふる影や秋の月　若狭る　良香

影高くこぼるや傾く後の月　若狭る　一道

月細影の満干動くの穴の海　豊直

月細影の満干動くの空の海　鼎仙

無月の後移りし名の扎　柳亮

名残の月名残も秋の日紫も　雅雄

一ト夜ハ月が涙れしと名月の氷　芦覚

名の々を雲月の舟も抗不思の事　行遠　正石

照ら玉の佳も月の下舟並　尾会　邑通

影らればかりの行衣の糸の月　口　任覚

縫いて月の名々に世雲の袖　順年

去影ハ佳の其の浪の月　稗田　政應

名の月は雅なきし玉のたえりのれ　　橘澄紀

名にてあるや雲新たれて後の月　　同　房英

十日余り待ちこそしたれ松の月　　参議　四敬

松をもてあるる

楽を月と松ら　たれうれ　　同　敬英

山の端は月の毎入湊　この中　　同　敬一

夕汐の満ちのこの浦の月　　同　正友

庭ふし風ふる松の月　　元澄

月待ふ人のこころも澄ぬ　　春　貞晃

雲ふかし月新清ふ稲ぬ　　同　主水

松の声　年もさやらきし月松ぬ　　同　教文

月待ふ待ちてやふ人山　　同　行貞

世をうしと云の葉毎の秋の月　□　豊春

言の葉の花や散らぬ秋の月　□　吉内

色月は照るまむかへるの花　□　紀篤

尽く海も月のうるる山路かな　□　雅船

新宮の月をたたへの出汐かな　□　真之

宮の海ふ汐むる浦の秋の月　□　（御宮内）高津

雲の浪消て月流る川のうの花　（大庄）西信

雲ちれて月新宮しる秋の庭　□　長葉

仰て見て思ふやそとの秋の月　（福田）実延

月残るふこてるや言るき雲の上　（小倉）義紹

雲ちれて爪長ふ雲も空の月　（長崎侍）茅内

雲の浪絶ぬ夜もうるる月の海　傳人家

山こゑや　名月の肩こそり　　仝

名月や　月ふく郷　冨士の郷　　仝

ゐる秋や　松の葉もゆる　秋の月　　仝

月もゆの　海あいたゝぬ　萩の庭　　豊直

絶てゆくと　白ゐあ　もゆる　萩の家　　素幽

鶴をや　おり掛ぬの　萩うゝ　舞　　八田　右頂

庵し来て　帰る　ゆき　庭の小萩の　れ　　三水　雅庵

行秋の　秋ゐ　ゆ　ゆくこの　志　萩原　　口　李隆

糸萩ハ　をゝて　ゆ　ゆるも　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　　口　豊庵

月　ゆ　ゆる　菊を　萩の　月　ゆ　ゆ　　口　豊亭

小萩ちる　姫　孫や　水の　淺　海　　豊之

屋　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　萩花　　拾ちう　敬之

[illegible]萩の花　[illegible]雅友

萩咲いも移りぬる秋もかな　香春　貞亮

萩こそい山路のうき紙[illegible]　義治　[illegible]通

[illegible]のあさぢやのもの小萩原　香春　貞[illegible]

[illegible]の織機の[illegible]　萩の花　紀[illegible]

[illegible]萩が[illegible]ふ[illegible]て風もかし　數文

[illegible]萩の[illegible]きうれ　山道　[illegible]

[illegible]萩ふ[illegible]ぬきの[illegible]　四條　[illegible]

言の[illegible]も[illegible]萩[illegible]る　[illegible]萩うれ　[illegible]

[illegible]萩の[illegible]きふ[illegible]　小倉　[illegible]

山風よ萩の番[illegible]　小倉　湯[illegible]

声もこの[illegible]　[illegible]人家

全

風や解るやいとゝ薄　中庸　安義

月の舟ぶやぶもの浪の上　仝

神ぶて拾くい舟の尾もの武　小会　正潔

風ぶ武浪の二深ゝ落ゝ　播田　貞能

拾くまひれ参ゝ糸屋　糸能

刈人を拾くゝ舟の尾　糸能

浦陸やすゝ帆をとゝ風の舟　白屋　真芳

秋の貝神ゝ入ゝすき　原　玄度

ゝゝ世や川ゝ多の糸すき　二條　元淑

秋風い拾て屋ゝの浪もゝし　久保　勢之

ゝや二度の刈ゝすき　彩津　良元

沙秋毋玉神ゝ拾く芒　鬼丸　玄忠

落葉の後の神の流れ哉　後人家

夕浪や三角の高の沢屋敷の邨　仝

くれぬまにくれぬ一所無常哉　元国

咲ぬ内や蕾の数のつもり哉　景覺

いろ香なくて化る花の如哉　後人家

樓や化競する花の姿　吉廣

樓の新や手首の水のうみ　新房

樓の色の後の始の水　光明寺　西柳

言の葉の手樓の色の世哉　童信

色の名や世にする秋のゆく色　昌二

小野の小町幸者の後の後よ

花の色御世に咲哉　吉願

新人の古稀の賀

七十年ぞ人の命の秋のいと
栄のむかふ春ぞ千代のうら　　前参議　宗義
色々の花の錦をこそ
色こそ染し苔も立ち　　宗尹
厳のうちもかふ春の色　　貞能
　　英親

名所紅葉

こと葉のうつし拾ひ世あ根岸の秋　　昌浸
白雪もこそ色ふ深き世の中　　英光山　幸能
春の橋秋ふ色の紅　　前宮　宣業
を川の秋の色をも染れ紅の声　　土原　政信
この夜ぞ秋の道　　延小　為定
　　口　琴子

さをめとて年ぼけなる萩の声　杉子

萩の声貢ハ年ぬ弱見うれ　梅月亭　風汐

秋風を吹縫萩の古枝こう申　雅人家

俱捨て沈りこそ家や萩の声　御川百　高雅

こと沈る萩や貢の和乃女　長水　和愛

かくしこふえやハ沈りこそ萩の声　中津　房子

おく山の初や貢宣れ蛩　宇和　良雄

夕暮れ撰い山の声ある夕暮れ　大洲　高育

撰い夏山や初むの声　岩寛

夕風よ山の声こそ蛩　高愛

撰人の声や　初月　庭の雲　豊廣

紅葉の声よ蛩ある夕の初　貞晃

嶺寺の声角に出て山の風
俤形の美を見て中の声
村竹よ中の鶴鹿く砌の風
松虫や弱ぶる夕の秋の声
月の夜小雨に濡れく砌の風

夏之　町子　苔文　緑條　緑水

或る家の庭の桑原にて

秋深く住めり桑や山石榴水　子参
小夜風や小庫の雲に稲妻の　言風
中夜風や庫の雲に滝庫川　宇内　魚水
庫の雲に星の戸叩く山風の　歩者　歩者と桃山
庫の雲や海の雲に延年舟　口　実行
庫の雲や鶏鳴に出る東山　恒子

鹿の音や二回のそらく名の山風　屋定

名の風よ鹿の音鹿く山回の月　都房

鹿の音よりんめ山きの郭　房之

鹿の声梅ヶ枝よ雄川　清志

紫丹や鹿の声つむ名月　仝

鹿の声名里よる山風　元清

茅の雲後人を多稲葉この月　子之

人をも高くとる小回の音の月　秋稲

清回や稲穂も鹿く茅の風　芝清

荒く名後高く清回の稲穂　郁山

清回小風の鹿三門稲穂　清紀

国の稲もこんく年行く秋回　義朝

小山の風ふきたてて鳴るこの風　小倉　西流

声高し　山風ふきや海もん　とくあき

道行くや雲の中より鹿の声　仝

山峯こゆる軍えの向けて下の琴　浪竟

鹿も声帆をかけてより和泉灘　吉房

和田岬波海をや一の橋渡り　仝

丁々と一本の声の響の風　素逝

影ふるるやあの一本の柳　浪紀

鹿ふるこの夕月に連れて行く　西之力

雲の鹿ふんの夕の姿の風　星秀

さ川鹿や沙漠歌の夕暮練　京猿

帰るこの海やあの夕暮の二夢　信竟

[illegible]も[illegible]川の山のれ　皇流

[illegible]れて[illegible]乃[illegible]川[illegible]　[illegible]

[illegible]の人[illegible]

軍も[illegible]　[illegible]の[illegible]の声　流　利貞

[illegible]人やしの[illegible]の[illegible]の声　の　[illegible]之

[illegible]て[illegible]　[illegible]れ　[illegible]　西辰

[illegible]の声　[illegible]　[illegible]　[illegible]人

[illegible]の[illegible]　[illegible]　[illegible]　大通

[illegible]の[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]や[illegible]　[illegible]　[illegible]

行秋幾憂むや声のきりぎす　西行

うゝも風ふく遠の衣うち　宗頓

秋ゆく人の身ふる声すなり　編参

捨ぬ恋やむの一ふし　良胤

捨捨ひとゝ秋ゆく下女　大伝　宗伝

波里ふうゝの遠の小夜衣　〃　蕉石

うゝ声や絵ゝも浪の聲ゝ衣　〃　方保

うゝ声乃　雲の衣うち　〃　宗和

捨ぬの雲ゝ秋ゆくうち　高野　宗雅

遠ゝ衣うゝや浦回の波の声　西大院　春宗

月ようゝ神ゝ聲ゝ小夜衣　雅徳

うゝ声ハ波の行ゝ遠ゝ衣　数定

浦なる苫屋の秋の夕ぐれ　吉口　藤満

天長の御宴の時の作の中　口　貞直

高うして雲や千里の秋の声　橘　隆紀

沢の星も井戸の秋の夜の月　高戸　成直

物寂しの笹うちそよぐ沢の中　口　貞成

秋風に揺れて雲を一山の夜　笹之内　春雪

高うして声をも運ぶ鶴の羽　二條　昌淵

我為に笹うち分けもかすし　宇治殿家　良泰

水上は花の雪なる笹の渕　桜町殿　成汲

うれや星の蔵しとのとしてふる笹の渕　吉度

雲高や花の月をうつす笹の渕　光長

笹の末て星一つ山路の月　仝

きゝ世絶絃こゝ和――色この琴の音　邑通

雲絶琴ゆゝしうもし流――琴の調　玄隆

切〻〻〻ゝ乱るゝきくゝゝ琴の庭　曉之

秋ハ琴よ志ほゝて殘る山路の風　利成

雲ゝ流て色こゝて深め琴の調　琴雪

雲も流――名ゝを流れて琴の調　中津　連成

打殘ル琴ゝて流ゝ山路ゝ――　房る

ゝゝとゝゝハ琴の雲ゝゝ琴ゝ　昌長

庭の池琴絶流て水もるゝし　ゝ義

雲絶ゝゝて入奥流――山路琴　隆紀

神ゝ門ゝ下ゝゝ代の秋の声　完会　義忠

神ゝる里ハ月ゝ入　風もるゝし　法号　佳光

世の業へ憂きを顧て
業をよすがとおもふなる岩の秋　清蔭

或人の庵の靈芝をこて
多年経て巖とやなれる石　平泰

言の葉の色幾枝の山路にふれ
豊直

元の水の下流汲やなる面　刑部卿

多浪や百業の水き三角川　元仙

たれよりとなきいとや手絡　沙文　清蔭

為に負て拙や自神の梅　正仙

芳しきにて拙や自神の梅　家能

松の色や海を長山すの濱水き　友仙

朝れるや集て松の下冊業　右廣

[illegible]　元澄

[illegible]　孤雲

[illegible]　正道

[illegible]　宣之

[illegible]　自直

[illegible]　惟実

[illegible]　栄冠

[illegible]　真定

[illegible]　雅隆

[illegible]　英剛

[illegible]　仝

山ものこるこがらしや　落葉の音

山寺や只一しきの落葉の音　惟中

柏の葉や落葉の後の淋しさ　其角

落く濃く淡く染の柏かな　春方

散も山も淋しき柏かな　都屋

秋の葉の色とりどりの色海柏の葉　順平

山川の掬ぶ手の内　元成

柏もみぢや紅葉の下冊葉　宗房

散しきの下の柏の紅葉柏の葉　廣延

茅の穂の穂の穂の穂の穂の穂の穂　文東

雨の音成柏の葉に雨の音　祇雄

柏しく片雲流る山もなし　昌長

雪春の三の山秋　雪春　祐房

海ふかき春の雪の秋の嵐山毎　是長

都代小三の井堰の花ちれ　信濃守　光厚

雪後春て花ハ雪の舟きそ　山城　法眼

武蔵なる海ハ雪と秋の山　四条中将　宗長

山雪やうれて夕日乃いろ花　摂政　正英

降雪山こゑ雪の花ちれ　懐人家

夕雪なたなむハ色の雪花　仝

降雪日色ハ海ハ都花ちれ　仝

都の雪ヒ雪の雪花ちれ　仝

都綱の雪ハ雪夕日の雪　元清

雪ハ夕ハ秋の雪ハ　寄雪山

無常なれば毎年の秋の山　高崎　雅友

落葉の積る拾ふ時雨　智日　芳昌

神社の戸ゝを寒し津の声　紫川　英化

色うつる秋世の移り行れ　永興寺　西章

海門の夕暮し秋の山　昌張

粮文庫　流れの月の月　玉瀬

竹の葉に雪の残り行時　京住宅　竹章

山の宮移りて白し一筋の水　高川

全部

山川の音ばかりもあるしの
月や星をもあるしの
雲の川ふこゑや猿丸山の
信濃秋連歌

二條
元久

思ひ出るかの音や
中津
一夏

英彦山大僧正
有直

宮仕法橋
立川

月雪の清き所の景ふりける　宗尼　秀峯

雪人の行あひ分ぬ朝の庭　二條　昌淺

まがきの戸鎖こめやそのこずの行方月　中納言　為氏

初雪の屋上の雪やそこ問　行文　西園寺

初雪の降しそこ行ける　元永　雅俊

年暮の帰る行方の雲　下侍　雅俊

遠山や時雨ふる日の行方　口　景定

雲の色乃時雨ふる　釋圓　政德

ふるこ時雨きの行方月　尼公　邑通

行人の袖長き雪の行方ふる　宮内　景光

岡寺とて宮の門くう初行　權紀　澄紀

雪の袖ふりて濡ふる行方ふる　下侍　景夢

[illegible]れて降る本の雪の竹の風　[illegible]　叔房

本の雪[illegible]れぬ小夜ぢ哉　二條　元郁

花[illegible]も散りしくもの時雨の風　[illegible]　政伝

月新の雨[illegible]遠き竹の風　[illegible]　弘美

降て咲[illegible]れよ小夜ぢ哉　[illegible]　[illegible]

[illegible]雪や[illegible]くの[illegible]哉　仝

言の葉の[illegible]や雪の松　[illegible]　公著

篇[illegible]や[illegible]白し一霜の雲　[illegible]　玄川

[illegible]の[illegible]の[illegible]胡蝶[illegible]風[illegible]の風　中川　[illegible]

[illegible]せしに思ひ[illegible]や雪の[illegible]　尾仝　邑通

[illegible]せよ[illegible]や[illegible]の[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]や[illegible]山[illegible]の[illegible]　[illegible]　[illegible]

胡蝶の夢に乞ほし　うかせての風　久保　直治

花盛りも　上葉は白し　霜の色　播田　正存

晨明の影志らし　うすし合羽の霜　松花　隆記

声たての子　絶よ寄てよこ霜の露　昌港

此道の霜逢ぬまりて世とく　道遠しなし　浅人　百好

浪合や　橋渡りすむ霜夜から　仝

名や来て　流りて世に虫の声　真念寺律師　恵天

声枯て　帰るや名残のまりくれ　福丸　知與

散しよき残　指に色はれ　山嵐この風　中川　玄廣

浮風は　木の葉の私の庭風の風　仝

散木の葉　凡の人残きもり浪代　庄谷　邑通

梢集むし　庭の木の葉や　連歌　今井　安通

本の葉数をとれば福光竹

雲をとて 此方の俗 本の葉の風　　寺光寺　一之

朝庭ふ 表の色なる 本のもとの形　　梅洞斎　成政

時雨をて 冬ふ 落葉の音　　雅田　正辰

かなしき 朝庭の 本のもとふ　　筆城　隆紀

時雨とて ちるを 俗 花時　　大里　恒年

かなしき 朝庭の 色の衣

時雨をし 色のもとく 本のもとふ　　雅紀　隆紀

朝庭ふ 表の色の 顔 本のもとふ　　筆城　子秀

朝や 花ふ とて 葉をる 新七月　　墨田　和中

山里ハ 落葉ふ 花ふ 山 高う 形　　隆人寄

世をとて 法 法をて 新七月　　稲田　盛直

[illegible] 元永 豊隆

夢かよ[illegible]　[illegible]　法 利貞

山石[illegible]　[illegible]　行平 重久

[illegible]　[illegible]　二條 元澄

[illegible]　[illegible]　下冷 [illegible]

夢波よ[illegible]　[illegible]　十念 [illegible]

[illegible]　白河 重[illegible]

声[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　天永 [illegible]

中[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

朝[illegible]　[illegible]　[illegible]

雁池鏡相源く川つの風　中納言　古歌
庭の池山陰よりて雪もうゝ　二條　元岡
思ひ相ハ雪の乃こゝろの初ハ　口　昌張
雁乃声や却て　滝の糸　口　元澄
雪も相源為や氷の屋食　法　利歌
雁の帰る源て川風の音　右京　政張

ゝゝ乃源拾ひ雁ゝの風　右京　歌国
氷ゝや氷の底の浪ゝ花　右京　恒年
ゝゝ乃帰る声氷ゝ相ハ　延永　満宗
ゝ波源相吹て雪や氷ゝ　光宗
ゝゝ乃相風ゝ源く氷の風　光宗
ゝゝ乃源拾ひ雁相の源　文永　重廣

水音乃声も梢ゝ吹うれ　二條　元氏

ゝゝゝゝ小舟を風の入江　四条宰相　雲頂

野ゝゝ小ゝ花ゝ吹ぬ　奇特うれ　紀伊守　重久

聞ゝ鶯ゝ声ゝ鳴く　伊勢ゝ家　寺尤寺　月秋

風ゝ吹ゝ　雪ゝ　花ゝ　うれ　雲門

風ゝ海ゝ声ゝ　山もゝし　一貞

風ゝ山ゝ海ゝ　沖津　浪ゝ音　嘉慶

本橋ゝ戸　紙ゝ　ゝれぬ　東ゝ　ゝし　大信　櫂舟

風ゝ　ゝれ　ゝ　色ゝ　峯ゝ　ゝ川　ゝ戸　元直

ゝ川ゝ柳ゝ　花ゝ　水ゝ　ゝし　岩越　俳房

岸竜ゝ　ゝゝゝ世ゝ　朝綱　小倉　直保

山ゝ雲ゝ　ゝゝ　山岸ゝ竜乃ゝ綱　ち秀　茶竜

海くもハ 横山岸竈の 烟こゝの
山岸竈の 烟よ 雲て山も 為一　雅俊
烟ゝ雲ゝ 海ゝ 年や 瀧唐川　雅俊
浪や 高砂 海ゝ 烟や 人　雅俊
雲ゝや 海 紙 礼 ゝ 為 し　元政
白雲 紙 掛 ゝ 雲 乃 羽 風 の 影　雅俊

着雪乃上 ゝ や 袖 乃 白 髮　雅俊
水 流 月 や 影 流 ゝ も 為 ゝ 哭　文化　仏品
池 ゝ 月 雲 ゝ 影 ゝ 夕 ゝ の 影　去廣
雲 ゝ 浪 流 ゝ ハ 月 の 水 ゝ 流　西谷　包茂
月 影 も 水 ゝ 雲 ゝ 夕 ゝ 水　西谷
梅 田 姫 こ ゝ や 雪 ゝ 夕 ゝ 月　登志

新たれよ　秋のこゝろの月　有馬　義剛

雲たれて出る新たむかしの月　恒年

降かゝる雨も庭面白し月の雲　高瀬　西英

降かゝる雨も庭面白し月の雲　久保　芳重

降たれて新いやこゝろ月　上田　友仏

降山路や数て新たる雲月　嘉光

すむ新や氷る月の影冬　利貞

雲たれよ墨ぬぬ山もし月の雲　玉田　真家

千里ゆも雲の光てやそこの月　四日市　雲巨

新氷る山ちかや峯の月　尾張　信竟

ゆゝてあこそ氷も雪川　美濃山　麦濃

氷ゆ氷雲の月　中津　菓隆

法の水 影も流れの 流れの影　無名子 芦花

落滝の 糸川 法の水 流れ　篁城 西反

雲の月 影も水 雲の海　元成

影さえて 峯の木の葉の 隠もなし　大会 嵐亭

峯の月 さえて 雲の色 水の色　口 正純

月白く 川辺 こぬき 月の流れ　口 倫泰

川橋に 月さえ 渡る 霜の流れ　口 芙蓉

隠れ 雲も 千里 さえ 月の色　漫人亭

河 雲 月 うき橋 氷の流れ　仝

池 月 月 氷 夜 雲も 波　仝

かし 山 風 波 氷の流れ　昌浪

かし 山 風 波 氷の流れ　新町 二吉

遠山乃こゑもむの一聲　延喜御歌　白雪

植しなさうれしてやハ松の雪　寺島

こゝろなきもあるものを雪の松　重清

亡き人をハ雪の下こゝろ　宮深

こゝの家の雪や積て雪のもと　貞慶

見到る深雪哉　仝

植しくしを朋雪降るや雪の松　貞慶

雪降も所あるこの雪二の雪　治竟

亡の花積て雪の三夜こゝろ　傍楽

萬木葉もあるべして雪も深し　重成　好信

雪なるなもや古山の雪の雪　為氏　西京

白妙ハこゝや雪降ハの雪　等隆　西敬

代々御修理御造営一宮の御所 致一

四方白一宮の山 雅能

彩綱宮ゝ 主て雲もなし 基竟

山河て宮のミこゝき都とゝ 厚谷 邑通

山宮の四方白一ゝ綱の宮 信竟

振ゝて入ゝ 宮の山路 恒年

ゝ川宮小路て庭津宮 国忠 房英

河水ゝ宮一 ゝ長小毎 正長

所ゝ ゝ柿の ゝ川宮 幼年 行隆

森ゝ宮のもいゝ 嘉竟

山宮や四て御の宮 有仁

山ゝや ゝ御の宮 正信

山家の言葉の内めぐりもあし

如何なるむけも山家の峯の色　　山城　元義

樵らしてなまつふる新の峯の色　　筑前　快徳

山の端よ思ふもやもの新の色　　摂津　西吉

唐ハもこのこと絶まる新の色　　三河　重辛

なみ寄やも山も見ぬ新の色　　国代　丸房

山家の新の月の色　　別当　資忠

稀なるこの言の葉井柳の新　　大信　枝海

武世なれる絶る河の新の色　　日　経房

門なる言葉もちの絶の新　　前田　教房

絶ん絶まちて

まれの言の世の変もうの　　大納言　元家

降初る雪や年の松のもと　真方

岩角や雪ふる梅川　景覺

山眉の雪よ鶯ゝ鳴ゝ　吳陵　夢乃

山宮や一夜ふ冨る雪の色　保永

川雪も雪ふ堰めるれ　名古屋　朝長

降雪のちらひらの稜の雪　小谷　春草

ちらひらの稜ゝて山やゝ雪の雪　朝

浪雪ゝて菊波雪の川雪ゝの形　倫泰

降稜ゝ雪ゝ雪ゝ　杉雪　義仙

雪の雪山稜雪て雪もゝし　雲川

雪の雪ふ雪ゝ雪ゝ雪ゝれ　仝

養雪の雪ふ白一月二の雪　雪顔

浦や只一声鳴せて波の上　仝

浦し言の葉風や　壺直

松風に雪の中　暁く

袖濡て一声ほのぬれ梅の松　元淳

袖濡て何松浦の乙女の松　陸人

袖の松一声ほのぬれ　仝

霧消て一声鳴や　雪川

雲松の今を盛りの雲　一南

霧晴る門とぶし多賀　半道

霧ゆるゆるの山もあらし　和生

松風の音や高砂の玉霧　宗能

雲の絶の一声ほのぬれ　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]こてら探ふん右の梅　豊廣

春雨[illegible]探こそすれ右の梅　友弘

[illegible]探よ[illegible]雨の梅　二方

冥くこのし探ふ[illegible]宮の梅　[illegible]

[illegible]探ふ梅の暦[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]もおし　豊道

[illegible]せてその奥ふむ暦[illegible]　言[illegible]

年も却[illegible]も帰し光の[illegible]　八日　右順

[illegible]も年いるも年の[illegible]　[illegible]成　[illegible]英

雲[illegible]のやかく[illegible]てもおし　洪　[illegible]之

情むふ異[illegible]年の[illegible]　[illegible]　[illegible]

廣英

豊廣

御門 政則

宣俊 重國

長善

宣俊 久俊

陸人書

昌長

陸奥

盛直

長人書

正友

切年の通路第宮もこの歌　金吾

第十一代天皇の年の宮もこの歌　良雄

春の日は春来ても来ずの花の色　宮内卿藤原定家

むかし思ふ人の年を一年の宮　吉房

三月の今宮の宮一日の歌　昌之

月八ことと乃月ハて第毎年もこの歌　金川

年ハ行くて月ハ出て西く光もこの歌　美嶋

行年の浪宮第十四の海　金願

追加

水鏡く梅ゝ香ゝむ垣根の春　宮伝法院　玄川

きゝ山の時雨猶残る郭　仝

如月廿日月出くし山路の雪　仝

紅ゝ梅ゝ色の深ゝ神　仝

吹られて散ゝけハ美ゝる風ゝ下の郭　仝

こゝろゝ中ゝ暑し秋の風　仝

世の藝能事多新の一葉の机　仝

澄てゝ月ゝ色ゝ秋の山　仝

巻ゝられ神ゝ元の玉簾　仝

松ゝ色ゝ月の曙　一吉の誉　仝

義のゝこの島　陰ゝる春の山　旨市法眼　玄頂

散てとゝ今秋ふかす　　仝

川ゝ岸ハ梅の香して聖おし　　仝

吹ぬ日も仏法の門や　花の風　　清昌三

吹風の雲ぬ秋ゝ月　姿の影　　稲田　盛直

軍到ぬ今の世ゝ　ゝ山ゝ影　　長谷　邑迦

散ゝゝハ下ゝ流ゝ　柳ゝ影　　楠　侍内

風流一解ゝ柳の糸ゝ髪　　左京　順年

紙ゝゝゝゝ弱や　いゝ柳　　宮部　童雄

花の色の春ゝ塩れし　柳の影　　仝

学ぬ成法ゝ宗ゝ　量ゝ月　　仝

色のゝもゝきぬ所や　蝉の声　　仝

散行ゝ一ゝゝや　星ゝ　　仝

月夜に雲の白絹次々と重ねし
埋れし道の枝折戸雪の松　仝
神垣て渡む言葉の玉襷　仝
朝雪乃色に雲絹の枝折の形　義信　高通
面の義風ふきつる末葉の郭　仝
山庄富や高き塔の鈴鹿　仝

折りて言の色掘若葉の礼　仝　直行
朝風に雲花の数末葉の礼　仝
重て雪を面に帰る新玉の　二塚　昌長

[illegible]
[illegible]
皇國の[illegible]
撰[illegible]
[illegible]
[illegible]

あれ王朝の有しゆゑし世を東海の影うつる名
小世の連歌の道一筋に新式を元らひし
まゝ京新宮うつり給法師昌源法橋のこゝ
万代乃白集世を行われしうたのちさとし
はうたをあつめしまれハ我数の於や顔
ゆ一思ひ立ゆゑ思ひめうら事はさて世後
むれしくしまひ無こゝろ一我經てんハ
をうあまのおのれこゝまきこの考て毎ゆしかまき
こゝのうををんく我国人の善我先月後
うつるけて新い世ゝれて我かゝつの影
ユこゝ行こゝ移世こして国内に廣く施一
てゝ一ゝ世ゝ我かれこゝ今ゝ世ゝ

[illegible]
いとおしらせられぬ　この[illegible]のおのれら業あてハ
[illegible]月人も河ぶし友幸よりの人よ[illegible]
全く集りて一巻しと事新し冒頭の如し
いにしへ[illegible]一旦[illegible]川[illegible]迄ハ紀氏法師の事
[illegible]の[illegible]の家[illegible]編れ年の編よ江戸の

大城のまへの御[illegible]歌[illegible]みもひ一このうの[illegible]の
るあるて[illegible]一[illegible]書れ家の[illegible]を編せられぬ
ちゝ子[illegible]大[illegible]軍の[illegible]編[illegible]て
この[illegible]の[illegible][illegible]ける二人の大人[illegible]
[illegible]
御[illegible]

猶はこれしく筆しく栄しとなんしとこそなかりし
あが家の色しこの集はし毎常花や高ね山乃
しこのおもむくへゆきつきもしほし虫くし川の清
あふき言葉の中にきくの海よりさやすむ海人の
まことはりにも等し波おのての岳なかつくあき言葉
とゝくこの枝つめられぬ影はたつのしの最比

萬清このしきし葉みこそ
只く穂人会
嘉永二年きく月
順年し彭義

はなかの亀石国大人はかるとい樽おもちう
をあ世をとゝ長く能しのいてん後ゝ式程ふく
このの大人方ゝとのうのいたれハえとゝ沢
を信ずし紙ゝ長豊金のめ一写とゝもいとゝ後
信ふく久のいとゝ母よ写ふ亀とゝのふう也張
うるをいめ遠ひも金のうゝ色一場く

[illegible]人[illegible]を用ひ[illegible]し

うとうの為めとして[illegible]

[illegible]も[illegible]

慶應二年[illegible]

[illegible]十[illegible]須

[illegible]